

古文書を読む会学習記録

作成日 平成28年 4月28日

開催日	平成28年 4月28日	時 間	10:00～12:00
場 所	新棟リハーサル室	出席人数	12名
講 師	真田雅行氏	作成者	山根 美智子
テーマ	第二学習 奥の細道④		
概 要	<p>(宮城野→壺の碑→末の松山→塩釜の浦→塩竈明神→松島→雄島→瑞巖寺)</p> <p><宮城野> 歌枕の地である名取川を渡って仙台に入ったのが5月5日 ここで画工の加右衛門と知己になり、古歌に詠まれた宮城野、玉田、よこ野、つつじが岡などを案内してもらい、国分寺である薬師堂にも詣でる 加右衛門より名所の画と紺の鼻緒を手向られる その心配りに、流石風流を心得ていると感入り一句 ○あやめ草 足にむすばむ わらじの緒</p> <p>やがて十府の里に至る <壺の碑> 多賀城にある壺の碑は聖武天皇の御代に鎮守府將軍大野朝臣東人が設けたもので 古来より歌人に詠み継がれたその碑は、時代の流れに存在を隠されてしまったが 今、眼前に古人の心を垣間見る想いで落涙を禁じ得ず</p> <p><末の松山> 野田の玉川、沖の石、末の松山を訪ねる 末の松山では白楽天の詩に思いを馳せ、しみじみと夕暮れの鐘の音を聴く</p> <p><塩釜の浦> 名所薮が嶋のほど近くに宿をとり、盲目法師のひなびた中にも風儀の残る奥浄瑠璃(義経の奥州下りの題材か)を聞く</p> <p><塩竈明神> 塩竈明神の詣でる。ここは巖かに煌びやかに再興されていて、その奥には藤原秀衡三男の和泉三郎忠衡が寄進した宝燈があった 義経に従い高館に戦死した忠衡の採った人の道に名前の通りと感銘する その後舟にて松島に渡る</p> <p><松島> ここは扶桑(日本)一の佳い景色で、美しすぎて画にも詩にも表現することなど誰にも出来はしないと絶句</p> <p><雄嶋> 雄嶋は陸続きで海に突き出た島である 島内には瑞巖寺中興の祖である雲居禪師の別堂の跡があり、今も木陰に静かに庵を編む人がいる 白日の明朗なる絶景は月が海に出ればもっと素晴らしいことであろうと思いつつ宿に入る ○松島や 鶴に身を借れ ほととぎす 曾良 夜、寝もやらで江戸を出発の日を思い起こして、弟子たちに思いを巡らす</p> <p><瑞巖寺> 真壁平四郎が天台宗から臨済宗に改宗した開山の祖、その後雲居禪師が中興の祖となり、七堂伽藍の立派な寺となった瑞巖寺に詣でる 当初開基の慈覚大師に匹敵する見仏聖(松島の荒磯で修業をした高德の雲居禪師)の住んでいた御堂はどこなのだろうかと思いつつ離れたい思いであった</p> <p style="text-align: right;"><次回は石巻から></p>		
次回予定	<p>平成28年 5月12日 10:00～12:00 於: 新棟リハーサル室</p> <p>第一学習 赤井村石井家文書⑤</p>		